

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493200107
法人名	社会福祉法人 幸済会
事業所名	高齢者グループホーム かわしまの里
訪問調査日	平成20年6月18日
評価確定日	平成20年7月14日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年 6月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	第1493200107号
法人名	社会福祉法人 幸済会
事業所名	高齢者グループホーム かわしまの里
所在地	横浜市旭区川島町1882-1 (電話) 045-372-6900

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年 6月 18日	評価確定日	平成20年7月14日

【情報提供票より】平成20年 5月 27日

(1) 組織概要

開設年月日	平成19日 6月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	20人	常勤 7人	非常勤 13人	常勤換算 9.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造
	2階建ての (1)階～(2)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 269,000 円～	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1,050 円			

(4) 利用者の概要 6月 18日 現在

利用者人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	6 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	70 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東川島診療所 牧野記念病院 エンドウ歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは相鉄線鶴ヶ峰駅から徒歩10分程の所にある、椚谷公園に隣接した新しいグループホームです。運営法人である幸済会は東川島診療所の院長を理事長とする社会福祉法人で、平成5年特別養護老人ホームを開設して、当ホームは11件目の介護施設です。当法人の「温かい心、冷たい頭、優れた技術」を基盤とした理念を認識し、「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」を当ホームの運営方針として、利用者の支援を実践しています。なお、年間50回の勉強会をする等職員の研修環境は充実しています。運営推進会議は開設以来、2ヶ月に1回定期的に開催されており、委員の尽力もあり地域のボランティア等とも定期的な交流が実施されています。なお、当ホームは、施設機能の地域への開放を始め地域への還元に向けて検討を始めるなど地域との交流が着実に進んでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価です。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム長は外部評価の意義を非常勤職員を含む全職員に説明すると共に、契約社員以上が中心となって、自己評価を行っています。社員が中心となり、今回、不足しているマニュアルの作成や整備を実施しています。ヒアリングした非常勤職員からも、ホームの運営方針や外部評価の意義なども徹底されています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は開設以来、2ヶ月ごとに5回開催されています。町内会長に選定いただいた委員の協力もあり、防災関係の取り組みを始め、利用者の日常生活動作(ADL)の維持や認知症の進行予防に関する助言を頂いています。その結果、ホームにおいては、ビデオを見ての体操の実施、利用者の調理作業への参加、ボランティアによる民謡等で定期的な地域交流等が実現しています。一方、ホーム側としてもこれにこたえて、施設の開放等、地域への還元について、何が出来るか検討が始まっています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見・苦情等への対応窓口については、重要事項説明書に明記されています。その他の窓口、要望などの収集方法は直接に利用者や家族との面談の際に注意深く聴取する事としています。しかし、不定期に、面会などで来所される家族の意見・要望等を何時でも自由に受け付けられる様「ご意見箱(仮称)」等を設置する配慮が望まれます。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元の自治会への加入や運営推進会議の定期的な開催により、地域社会との交流・定着化は確実に進んでいます。ホームの直前が大きな旭区椚谷公園であることから、地域で開催される防災訓練、公園及び地域の清掃活動、夏祭りなどへの参加を通じて地域との交流が着実に進んでいます。ホームの敷地内にある家庭菜園の手入れもご近所の方が手伝って下さるなど日常生活においても良い関係が築かれています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「温かい心、冷たい頭、優れた技術」を認識し、ホーム長が中心になって当ホームの運営方針を策定しています。それは「ゆっくり、一緒に、楽しく」過ごされる生活空間を提供する事であり、利用者の残存能力の維持や、社会性の維持向上、回復などの支援を目指すホームの運営に活かされています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念及びホームの運営方針は事務所に大きく掲示されており、日常の支援業務における利用者への対応の中で活かされています。毎月開催される法人内の研修会等の際にも確認し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当ホームは開設(H19.6.1)早々、8月には独自の運営推進会議設置運営要綱を作成し、2ヶ月ごとに既に5回開催し、その効果が認められます。自治会にも加入し、職員等による地域の清掃、防災訓練、夏祭りへの参加など、地域との交流が深まりつつあります。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を職員全員に説明すると共に契約社員以上が中心となり、自己評価を行っています。同時に不足しているマニュアル等の不備を洗い出し、作成、整備に取り組んでいるところです。社員へのヒアリングにおいても外部評価の意義がよく伝達されています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開設以来、2ヶ月毎にホームの事務所にて開催されています。委員の協力もあり、地域防災関係の周知、ボランティアグループの定期訪問の実現、小学生の介護体験訪問等、地域との交流が実現し、定着化しつつあります。一方、ホーム側からも施設機能の開放や地域への還元に向けた検討等が始まっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の「福祉保健センター」が主催する「地域支え合い連絡会」(1回/3ヶ月)の構成員として参加し、自治会、地域社会福祉協議会、ボランティアグループ、ケアプラザの方々との交流を通じて、地域にまつわる各種情報を入手し、ホームの運営、サービスの改善に活かしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の事故や体調不良のときはホーム長より直接電話にて家族に報告しています。平常時における家族への連絡は毎月の請求時に行う連絡の際、日々の利用者の様子、行事予定や写真を添付しお知らせしています。社員の異動等については面会時に報告する事としています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にはホーム長及び外部機関の苦情受付窓口が明記されています。また、受け付けた苦情等は取り扱いマニュアルにより、早期に改善できる様、体制を整備しています。しかし、家族等の意見が何時でも自由に収集できるような「ご意見箱(仮称)」の設置はされていません。		家族等が思いついたら何時でも投函出来るように「ご意見箱(仮称)」を設置し、意見・苦情を積極的に収集し運営に反映していく取り組みが望まれます。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設以来、人事異動はありません。職員とは常に意思疎通を図り、離職に繋がるような事態を最小限となるよう配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人では、毎週金曜日の18:30より、年間50回の勉強会を企画しています。当ホームからは職員毎の専門的な研修のほか、救命講習については非常勤職員も含む全職員が研修に参加しています。受講した後はレポートを提出する事とし、研修効果を高めるよう配慮しています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	旭区が計画するグループホーム連絡会へホーム長が参加するほか、地域の地区の社会福祉協議会、連合自治会、ボランティア団体、地域ケアプラザが参加する「地域支え合い連絡会」にも参加し情報交換を行い、ホーム運営の参考にしていきます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者には、事前調査時に良く説明すると共に、入居前に必ず見学に来ていただき、馴染んでから入居する様にしています。使い慣れた物の持込や家族の面会等、利用者が安心できる環境づくりを行っています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者を支える職員としては、運営方針の実践に向けて、忍耐強く、献身的に、を信条に利用者の声に耳を傾けています。ホームの暮しをテーマに俳句を作る方、塗り絵の上手な方、家事の好きな方等を支える職員と利用者は良い関係が築かれています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者本人の生活歴を把握すると共に、日々のかかわりの中で馴染みの職員が利用者へ直接真意を伺うほか、意志疎通が困難な利用者には日々の観察及び家族から情報を得てケアプランに反映しています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族は平均月に1回程度来所されその折に利用者と共に意向を伺い介護計画を作成しています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しについては利用者の入居後の日が浅く、状況に変化が無い為、行っていません。</p>		<p>今後、状況の変化の際及び定期的な介護計画の見直しが望まれます。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院は基本的には家族が付き添いますが、家族の状況や要望に応じ職員が対応しています。また、利用者の馴染みの散髪店や、買い物への同行も状況に応じて対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者及び家族と話し合い、理事長が医師の為、主治医として随時健康管理を行う事としています。緊急時には夜間でも往診可能です。希望により以前のかかりつけ医に通院する利用者もいます。定期的な健康診断は近くの協力病院で受けています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化し、ホームでの生活が困難な場合はホームから選択肢を示し家族と話し合う事としています。終末期には、医療行為を必要としない場合は、看取りを行なうこととしており、その旨、入居時に説明し、同意書を交わしています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報や接遇に関わる勉強会を実施し、毎日の挨拶や声かけ対応が馴れ合いにならないように日々のかかわりでリーダーが指導しています。個人情報の書類は事務所内の鍵のかかる戸棚に保管されています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々利用者の希望を伺いながら出来る限り希望に沿った生活を送れるように支援しています。入浴や体操なども無理強いはいないようにしています。昼夜逆転の利用者には夜勤の職員が会話をしたりして対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	土・日曜は利用者の意向を伺いホームにてメニューを決めています。月曜から金曜は宅配業者に注文し、包丁が使える利用者は職員と一緒に調理を行っています。配膳・テーブル拭きは利用者が加わって行っています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者本人の希望を伺い夕方まで自由に入浴が可能です。入浴拒否の利用者は職員が言葉かけやチームプレーによって入浴支援を行っています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりが得意分野で力を発揮して役割分担を見出せるよう支援しています。洗濯たたみを役割とされる男性利用者もいます。毎日のカレンダー直し、食器拭き、俳句、アルバム作りをする利用者もいます。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中だけで過ごすことのないよう外出を楽しむ支援をしています。毎月の行事の他、近くの公園への散歩を日課としている利用者もいます。散髪、買い物、お墓参り等希望に合わせて外出支援を行っています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設が道路に面している為交通上のトラブルを考慮し、玄関は施錠しています。施設内は少しでも閉鎖感を無くすように心がけ、事務所 台所に扉を設けず開放的な暮らしを支援しています。玄関の施錠については家族の理解を得ています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時には町内会と連携が取れるよう防災訓練に参加しています。事業者間で災害時対策に関する話し合いや具体的な支援体制の取り組みを行っていますが施設内での避難訓練は行っていません。		避難訓練の実施及び非常対策用品(飲料水・食料)の準備が望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは専門業者の栄養士がメニューの作成時に配慮しています。水分量は一日1500cc以上を目標として摂れるよう支援しています。毎日食事量、水分量はチェック表にて管理しており、形態・代替え食等についても、夫々利用者に合わせて配慮しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内のどの部分にも自由に出入り出きるように仕切りがなく良く工夫されています。フロアの壁には利用者の書かれた俳句が飾られ、季節に合わせて庭の花壇の花が生けられています。トイレは利用者の身体状況に合わせて使用しやすいように3タイプに設計されています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた物や愛着のある物で危険でない限り全て持ち込みを許可しています。扇風機を持って来られ夏を過ごされたり、ぬいぐるみ、お位牌、仏壇を持ち込みされている利用者もいます。希望によりベットを避け布団を利用されている利用者もいます。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	高齢者グループホーム かわしまの里
(ユニット名)	芭蕉
所在地 (県・市町村名)	横浜市
記入者名 (管理者)	ホーム長 林 光政
記入日	平成20年5月28日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「暖かい心、冷たい頭、優れた技能」の法人理念を確りと認識し、施設内の方針としても、ご利用者が家庭的な雰囲気の中で「ゆっくり、一緒に、楽しく」過ごせる生活環境を整える。有する能力に応じた残存機能の維持。買い物やレクリエーション等を通じ、社会性の維持、回復を援助するという方針を掲げている。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	スタッフルームに掲示し、スタッフ一人一人が共有出来るようにしている。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ご家族様には、入所前に説明している。また、地域の方には開所前に内覧会を実施し、説明している。玄関には理念などを掲示している。現在では、運営推進会議等を通じ、施設での取り組み等を理解して頂いている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	目の前の公園ですれ違った方等など、積極的にご挨拶させて頂いているが、近隣の方が気軽に立ち寄りという事は殆ど無い現状である。	施設内で働く職員やご利用者様をもっと近隣の方に知って頂ける様に、地域の行事や定期清掃等に積極的に参加していきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	目の前の公園を中心に、そこで行われる定期清掃や消防訓練に参加している。また、運営推進会議を活用させて頂き、町内での行事等も教えて頂き、夏祭りなどにも参加している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者事業所として、今まで近くを通った方や電話等で介護施設等の相談を受け、特養への申し込みシステムや書類の配布など、行える範囲内の事は行っている。また、グループホームで働く職員として、法人本部の特別養護老人ホームで、地域の方に向けた講習会に何度も参加させて頂いている。		今後、施設をもっと知って頂ける様に、地域向けの勉強会等も検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は自己のサービスの振り返りとして、確りと確認していき、日々向上心を持って取り組んでいきたい。また、外部評価は今回初めてなので、改善事項などは真摯に受け止めていきたい。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催をしている。民生委員や保健活動推進員、地域包括支援センター職員等に施設内での活動状況、行事、事故、研修等を報告している。運営推進会議を機に、定期的なボランティアの来所等も実現している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近隣のケアプラザで行われる「地域支え合い連絡会」(3ヶ月1回開催)の構成員として参加させて頂き、地域での様々な情報を得ている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内での勉強会や講習などに参加出来る範囲で行っているが、社外の講習会等は管理者としても回数的に不足していると思われ、また一般職員の外部講習の参加も殆ど行っていない現状である。		法人内での学びのみだけでなく、社外研修の機会も増やせる様に取組、管理者・一般職員の総合的なスキルアップに繋げていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待の勉強会を定期的に行っている。また、管理者や中堅職員が新人への指導を個々に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居に関しては、入居前に施設に足を運んで頂き、普段の様子や重要事項を説明し、ご利用者様・ご家族様が何を心配されているか、汲み取る様に心がけている。退所に関しては、今まで特別養護老人ホームへの入所決定以外無いが、退所の際もご利用者様・ご家族様が安心して退所出来る様、充分な話し合いの時間を設けている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者様が不満等を言いやすい様に、管理者を中心に話し合いの場を多く持つようにしている。また、契約書や入口に市町村の苦情窓口を記載している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>事故や体調不良等は、管理者よりご家族様に電話連絡を行っている。また、毎月の請求時にご利用者様の日々のご様子や行事でのご様子を写真等も送付し、ご報告している。金銭に関しては、領収書の写しと通帳の写しを添付している。職員の移動、退職などに関しては面会時等に報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口を設置し、契約書にも市町村の外部苦情窓口を明記している。頂いたご意見等は、職員に周知し、必要時は早急な業務改善を行っている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年に1度、全職員が運営者との面談の機会を設けている。また、管理者は一般職員の意見を聴きやすい体制を心げている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>要望等があれば、出来る範囲で検討し、入院の付添や手術日のご家族代理など、調整できる範囲で行っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事異動は今までで一度も無い。離職は最小限に抑えられる様に心がけているが開所から今まで何度かあった。</p>	<p>今後も離職が極力少なくなる様、一般職員の話に確りと耳を傾ける事を心掛けたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修では、毎年年間計画をつくり、全職員参加出来る様に努めている。20年度は、外部講師の講習や回数も増やし毎週勉強会の機会を設けている。また、毎年介護研究発表会等にも参加している。		施設内での研修のみならず、社外研修への参加機会も増やしていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム職員の意見交換の他、集団講習の場などを活用している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が働きやすい様に、行える範囲の勤務調整等を行っている。また仕事の内容は勿論、仕事外の事でも交流会等を通じ、相談し易い場を作っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常勤職員への登用制度を設けている。また、本人の有する能力に応じた法人事業所内での人事異動も行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用者様・ご家族様より相談・入所に至るまで、現状のニーズを理解し、ご利用者様が適応出来る環境作りを心掛けている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所してからご利用者様が施設に慣れるまでの不安や、入所後体調を崩したり、退所を検討していかない時の事など、早期の段階で話し合いを充分に持つように心掛けて、利用していく上での心配が無い様に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様・ご家族様にとって、何が必要なのか相談しながら対応している。また、困難事例等は、法人内での意見を伺い対応に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に必ず、見学に来て頂き、日々の雰囲気などご説明させて頂いている。また、ご利用者様が心配される事が無い様に、今まで使用されていた物を持って来て頂いたり、必要であれば、ご家族様の面会の増減等、ご利用者様が安心してできる環境を第一に考え実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや清掃など、極力一緒に行うように心掛けている。また、仕事の内容に捉われず、日々の出来事など話をする機会を多く持つ様に努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様が何を求めているのか、ご家族様の意向等も汲み取った介護計画を作成し、ご家族様と極力しながら、ご本人様の支援をさせて頂いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時のご報告や、毎月の手紙の他、ご利用者様のご家族様に対する思い等があれば、電話等でお話して頂くか、代弁させて頂き、良い関係が維持出来る様に努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を特別設けず、面会に着やすい様にしている。また、今までもご本人様の意を汲み取り、お葬式などの参列の希望があれば、参加出来る様に支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の有する能力に応じたお手伝いを通じ、一人一人が孤立しないようにしている。また、ご利用者様同士が関わり合いが持てる様な、橋渡しの他、他者との関わりを好まれない方に対しては、職員が人間関係の構築に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	未だ、該当される方が殆どいない現状の為、ご家族様やご本人様のご様子を電話でお伺いする事はあっても、継続した関係とは言えない。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様とのお話を多く持つ様に心掛け、ご意向をケアプランに反映出来る様にしている。		お一人お一人の多種多様なご意向の実現という部分では、未だ不足していると考えられ、介護計画とモニタリングを確りと見直し、お一人お一人の多種多様なご意向を実現できるようにしていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所時の聞き取りの他、必要であればご家族様やご面会の方等にお話を伺い、職員が共有出来る様にしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の心身の状態等は、申し送りやケース記録等を通じ把握に努めている。また、日々主治医や看護婦に、その様子を報告書にてお伝えし、施設内の見解のみならず、総合的に把握できる仕組みとなっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを介護支援専門員、管理者、担当職員で行い、ご家族様・ご本人様のご意向を伺い、関係者の意見を反映したケアプランを作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン作成してから、日が無く、モニタリングという部分では不十分であると考えられる。		定期的な、モニタリングの他に、ご利用者様の状況変化があれば、早い時点で検討を行い、より適したプランを日々実施出来る様にしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に伴い、日々個人のケース記録に落としている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族様のご都合が悪い場合等、職員で行える事は可能な範囲で実施している(外出、通院、買い物など)。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域交流は、積極的に実施している。入所者の中でも、現在でも民生委員との繋がりがある方もおり、法事等に一緒に参加したりされている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特養等への申し込み等の支援を行っている。また、今までご利用していたサービス(デイ、特養、指定居宅など)の関係者と積極的に話を持つ様に心掛けている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	具体的に今まで事例が無いが、運営推進会議等で地域包括支援センターの職員との交流もある為、今後のケースに役立てていきたい。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長が医師である為、自らご利用者様の健康管理をしている。緊急時には夜間でも診てもらえる事も出来る。また、看護婦が月2回訪問している。協力病院の診療所等には、職員が付き添いで定期的な健診を受けられる様に支援している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医療機関が精神科であり、病状の家族への説明や職員に対して適切な対応の指導等頂く事が出来る。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>月に2回の訪問の他、定期的な受診の際の報告、また日々のご様子を毎日書類にて報告し、状況の変化を共有している。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院者が出た際は、ほぼ毎日面会に伺い、状況の変化が無いか、看護師や医師に伺い、早期の退院が出来る様に努めている。また、状況の変化等があれば、ご家族様にもご報告している。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入所契約時に、重度化した場合における指針について、ご説明し、同意書を頂いている。必要が生じた場合は、選択肢を示し、ご本人様・ご家族様にとって、より良い方向に向かう様支援している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>入所者には、特別養護老人ホームへの申し込みを勧めている。また、重度化しての退所は今まで無いが、今後の事も含め、掛かり付け医の医師、看護婦と日々の心身の状況把握に努め、迅速な対応努めていきたい。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>特養への入所に伴う退所の際は、グループホームでの日常のご様子や服薬状況など、直近の確認事項などをサマリー等を通じ、情報をお伝えする。また、入所の際は、ご本人様が困惑しない様に、今まで使用していた愛着のある物等を積極的に持ち込んで頂き、極力ご本人様の生活に合わせる事を意識している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報や接遇に関わる勉強会を実施し、声掛けや対応が慣れ合いにならない様に意識している。記録類や職員間の伝達等は、ご利用者様の言動を注意しながら行っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>一人一人に合わせた言葉掛けを行っている。また、ご利用者様が意志決定が出来る様に出来るだけ多くの選択肢の中から選べる様にしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々ご利用者様の希望を伺いながら、出来る限り希望に沿った生活を送れるように支援している。入浴や体操なども、一人一人希望が異なる為、無理強いはいないように注意している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>2ヶ月に1度、理美容の定期訪問があるが、今まで慣れ親しんだ行きつけの場所で行いたいと希望がある方に関しては、送迎など必要に応じた付き添いは実施している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>包丁などが扱えるご利用者様には、職員付き添いの元、調理も行って頂いている。また、その他の方に関しても、配膳や下膳、テーブル拭き等ご利用者様の状態に応じた協力をして頂いている。メニューに関しても、ご利用者様の意向を伺いながら、決める努力もしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好品やおやつ等は、ご家族様と相談させて頂き、一人一人にご希望に沿いながら支援している。お酒類等は、主に行事の時等にご希望の方には楽しめる様に努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を活用し、一人一人の排泄状況を把握し、各々に合った声掛け・誘導を実施している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は特に決めていないが、時間帯においては昼間の入浴を実施している。		夜寒帯での入浴などは、希望があっても現状は困難な事が多いため、遅めの入浴を希望されるご利用者様には、極力夕方に行く等の配慮を行っていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転傾向のご利用者様等も含め、出来るだけご本人様の今までの暮らしを壊さない様な支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人行える事が異なる事を認識し、それぞれに応じた役割分担を意識している。また、生活歴などからも得意な物、好きな物を把握し、ご本人様に喜んで頂ける場を出来るだけ多く提供出来る様にしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が行える方に関しては、ご家族様とお話をして持って頂いている。また、管理が行えない方に関しても、買い物の際に職員付き添いの元、支払って頂いたり、お釣りを受け取って頂いたりという経験を心掛けている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月の行事の他、天気の良い日は公園の散歩を日課とし、希望者等にはドライブ等の気分転換も行える様にしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事の他、個人の法事等、ご家族様や民生委員の協力の元、ご希望があれば、実施出来る様にしている。		外出のレクがまだ多くないので、今後中華街やお寺の散策等、行ける選択肢を増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望がある際は、電話の使用・手紙のやり取りは支援している。また、贈り物等が届いた際も、電話を勧めたり、手紙の代筆を行ったり支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間等は特に設けず、気軽に来所して頂ける様にしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で、身体拘束をしないケアに取り組んでおり、今まで実施の前例は無い。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、交通上のトラブルも含め常に施錠している。その為、施設内は少しでも閉鎖感を無くす様に心掛け、事務所・台所等扉を設けていない。玄関の施錠に関しては、ご家族様にもご理解を頂いている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を問わず、居室内で過ごす方に関しては、ご本人様が不快感を抱かない様に気を配りながら、定期的な訪室をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人様の管理能力や職員の支援により、使用出来るものは基本的に制限をしていない。ただし、最悪な状況を予見し、ご家族様や主治医と相談し、遠慮して頂くケースはありえる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを職員間で共有する様に心掛け、事故を起こさない努力を第一とする。また、事故が起きた際も最小限度に留まる様に、マニュアルの活用や勉強会、救命講習等にも積極的に参加してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員を対象とした救命講習を年2回実施している。また、毎週勉強会を実施し、介護職員のスキルアップに努めている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	建物はガスを使用せず、オール電化にしている。また、消防設備や水回りなどは業者による定期的な点検を継続して実施している。近所で行われる防災訓練には、職員が参加している。		全ご利用者様を対象とした、避難訓練は行えていない為、確りとした対策を立て、早急を実施していきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事故一つとっても、防止対策を確りと検討し、必要に応じご家族様ご了承の物を少なくして頂いたり、設置して頂いたりしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の様子観察と申し送りの重要性を職員一人一人が確りと認識している。また、昼夜問わずご利用者様の体調変化があれば、管理者に連絡する体制をとっており、必要に応じ管理者より医師に指示を仰いでいる。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧を全職員が目を通せる体制を取っており、臨時の薬など内容に変更があった際は、伝達ノート・申し送り等で情報の共有化を図っている。		全職員一人一人が細かい内容まで、把握しているとはいえない現状あり、今後施設内でも定期的な勉強会を実施し、全職員での把握に努めていく。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表を活用し、日々の排便状況を把握し、申し送り等で情報を共有している。便因が確認出来る際は、水分や運動等、必要に応じ下剤等で調整している。		散歩や歩行訓練以外にも、様々な運動レクを取り入れていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の嗽、歯磨きを声掛け・誘導にて実施している。義歯等は、夜間帯に預かり洗浄している。また、服薬時等に口腔内の観察をするように心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日チェック表にて管理している。また、形態・代替え食等も一人一人に合わせ実施している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員やご利用者様の嗽、手洗いの習慣を強化しており、また感染が予見できる場合は、早い段階で受診し最小限に食い止める努力をしている。勉強会も、社内外を通じ活用している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は外注業者に委託しており、安全な物を提供してもらっている。調理道具等は、夜間帯に熱湯消毒・アルコール除菌等を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは、鉢等を置く様に心掛けており、また外の花壇にはご家族様ご協力の元、花等を植えている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、花や飾り付けを行い、その時々にあった雰囲気を感じて頂ける様にしている。また、施設内の殆どの部分が自由に出入り出来る様な作りになっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になるスペースは居室となってしまうが、職員との二人きりでの散歩等状況に応じた対応をしている。また、リビングのソファ等でご利用者様同士が楽しめる様な工夫をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた物や愛着のある物は危険でない限り、全て持ち込みを許可している。入所前の生活スタイルを大切にしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の職員による換気や、日々の衣類調整・空調調整を一人一人に合わせ行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は殆どの部分がバリアフリーとなっており、扉を殆ど設置していない為、お一人お一人気兼ね無く生活出来る作りになっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレなど、解り易く表示する事で混乱が少なくなる様に努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りを一緒に清掃したり、植えてある花を観賞したり、育てる支援をしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者様の日々のご様子等を毎日、協力医療機関にFAXしており、主治医や看護婦と情報を共有する事により、早期の異常発見に努めている。目の前の公園を利用し、日々の散歩に留まらず、そこで実施される行事や定期清掃、防災訓練などご利用者様と一緒に様々な体験をしている。法人全体での外出(外泊)レクリエーションが充実しており、畚狩りや七夕、温泉など今まで行けなかった場所等喜んで頂いている。なかなか面会に来られないご家族様が変わり、一緒に買い物に行ったり、協力病院外でも受診を行ったりと、ご家族様のご負担も考慮した対応を行える範囲で実施している。また、毎月の月報に普段のご様子等を写真を添えたりしてお送りしている。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	高齢者グループホーム かわしまの里
(ユニット名)	一茶
所在地 (県・市町村名)	横浜市
記入者名 (管理者)	ホーム長 林 光政
記入日	平成20年5月28日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「暖かい心、冷たい頭、優れた技能」の法人理念を確りと認識し、施設内の方針としても、ご利用者が家庭的な雰囲気の中で「ゆっくり、一緒に、楽しく」過ごせる生活環境を整える。有する能力に応じた残存機能の維持。買い物やレクリエーション等を通じ、社会性の維持、回復を援助するという方針を掲げている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームに掲示し、スタッフ一人一人が共有出来るようにしている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様には、入所前に説明している。また、地域の方には開所前に内覧会を実施し、説明している。玄関には理念などを掲示している。現在では、運営推進会議等を通じ、施設での取り組み等を理解して頂いている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	目の前の公園ですれ違った方等など、積極的にご挨拶させて頂いているが、近隣の方が気軽に立ち寄りという事は殆ど無い現状である。	施設内で働く職員やご利用者様をもっと近隣の方に知って頂ける様に、地域の行事や定期清掃等に積極的に参加していきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	目の前の公園を中心に、そこで行われる定期清掃や消防訓練に参加している。また、運営推進会議を活用させて頂き、町内での行事等も教えて頂き、夏祭りなどにも参加している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者事業所として、今まで近くを通った方や電話等で介護施設等の相談を受け、特養への申し込みシステムや書類の配布など、行える範囲内の事は行っている。また、グループホームで働く職員として、法人本部の特別養護老人ホームで、地域の方に向けた講習会に何度も参加させて頂いている。		今後、施設をもっと知って頂ける様に、地域向けの勉強会等も検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は自己のサービスの振り返りとして、確りと確認していき、日々向上心を持って取り組んでいきたい。また、外部評価は今回初めてなので、改善事項などは真摯に受け止めていきたい。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催をしている。民生委員や保健活動推進員、地域包括支援センター職員等に施設内での活動状況、行事、事故、研修等を報告している。運営推進会議を機に、定期的なボランティアの来所等も実現している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近隣のケアプラザで行われる「地域支え合い連絡会」(3ヶ月1回開催)の構成員として参加させて頂き、地域での様々な情報を得ている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内での勉強会や講習などに参加出来る範囲で行っているが、社外の講習会等は管理者としても回数的に不足していると思われ、また一般職員の外部講習の参加も殆ど行っていない現状である。		法人内での学びのみだけでなく、社外研修の機会も増やせる様に取組、管理者・一般職員の総合的なスキルアップに繋げていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待の勉強会を定期的に行っている。また、管理者や中堅職員が新人への指導を個々に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居に関しては、入居前に施設に足を運んで頂き、普段の様子や重要事項を説明し、ご利用者様・ご家族様が何を心配されているか、汲み取る様に心がけている。退所に関しては、今まで特別養護老人ホームへの入所決定以外無いが、退所の際もご利用者様・ご家族様が安心して退所出来る様、充分な話し合いの時間を設けている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者様が不満等を言いやすい様に、管理者を中心に話し合いの場を多く持つようにしている。また、契約書や入口に市町村の苦情窓口を記載している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>事故や体調不良等は、管理者よりご家族様に電話連絡を行っている。また、毎月の請求時にご利用者様の日々のご様子や行事でのご様子を写真等も送付し、ご報告している。金銭に関しては、領収書の写しと通帳の写しを添付している。職員の移動、退職などに関しては面会時等に報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口を設置し、契約書にも市町村の外部苦情窓口を明記している。頂いたご意見等は、職員に周知し、必要時は早急な業務改善を行っている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年に1度、全職員が運営者との面談の機会を設けている。また、管理者は一般職員の意見を聴きやすい体制を心がけている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>要望等があれば、出来る範囲で検討し、入院の付添や手術日のご家族代理など、調整できる範囲で行っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事異動は今までで一度も無い。離職は最小限に抑えられる様に心がけているが開所から今まで何度かあった。</p>	<p>今後も離職が極力少なくなる様、一般職員の話に確りと耳を傾ける事を心掛けたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修では、毎年年間計画をつくり、全職員参加出来る様に努めている。20年度は、外部講師の講習や回数も増やし毎週勉強会の機会を設けている。また、毎年介護研究発表会等にも参加している。		施設内での研修のみならず、社外研修への参加機会も増やしていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム職員の意見交換の他、集団講習の場などを活用している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が働きやすい様に、行える範囲の勤務調整等を行っている。また仕事の内容は勿論、仕事外の事でも交流会等を通じ、相談し易い場を作っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常勤職員への登用制度を設けている。また、本人の有する能力に応じた法人事業所内での人事異動も行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用者様・ご家族様より相談・入所に至るまで、現状のニーズを理解し、ご利用者様が適応出来る環境作りを心掛けている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所してからご利用者様が施設に慣れるまでの不安や、入所後体調を崩したり、退所を検討していかない時の事など、早期の段階で話し合いを充分に持つように心掛けて、利用していく上での心配が無い様に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様・ご家族様にとって、何が必要なのか相談しながら対応している。また、困難事例等は、法人内での意見を伺い対応に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に必ず、見学に来て頂き、日々の雰囲気などご説明させて頂いている。また、ご利用者様が心配される事が無い様に、今まで使用されていた物を持って来て頂いたり、必要であれば、ご家族様の面会の増減等、ご利用者様が安心してできる環境を第一に考え実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや清掃など、極力一緒に行うように心掛けている。また、仕事の内容に捉われず、日々の出来事など話をする機会を多く持つ様に努めている。ご利用者様の戦争体験を伺い、その方の趣味の短歌をリビングに張り出して皆で鑑賞している。		ご本人が現在治療中の疾病の改善を待って、一緒に家事を行っていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様が何を求めているのか、ご家族様の意向等も汲み取った介護計画を作成し、ご家族様と極力しながら、ご本人様の支援をさせて頂いている。年に2回ご家族同伴の一泊旅行を企画し、その際にご家族の苦労話なども聞かせて頂いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時のご報告や、毎月の手紙の他、ご利用者様のご家族様に対する思い等があれば、電話等でお話して頂くか、代弁させて頂き、良い関係が維持出来る様に努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を特別設けず、面会に来やすい様にしている。また、今までもご本人様の意を汲み取り、お葬式などの参列の希望があれば、参加出来る様に支援している。ご本人の行きつけの床屋や美容院に通って頂くよう送迎を行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の有する能力に応じたお手伝いを通じ、一人一人が孤立しないようにしている。また、ご利用者様同士が関わり合いが持てる様な、橋渡しの他、自立したご利用者様に他のご利用者様の簡単なお世話をお願いしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	未だ、該当される方が殆どいない現状の為、ご家族様やご本人様のご様子を電話でお伺いする事はあっても、継続した関係とは言えない。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様とのお話を多く持つ様に心掛け、ご意向をケアプランに反映出来る様にしている。		お一人お一人の多種多様なご意向の実現という部分では、未だ不足していると考えられ、介護計画とモニタリングを確りと見直し、お一人お一人の多種多様なご意向を実現できるようにしていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所時の聞き取りの他、必要であればご家族様やご面会の方等にお話を伺い、職員が共有出来る様にしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の心身の状態等は、申し送りやケース記録等を通じ把握に努めている。また、日々主治医や看護婦に、その様子を報告書にてお伝えし、施設内の見解のみならず、総合的に把握できる仕組みとなっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを介護支援専門員、管理者、担当職員で行い、ご家族様・ご本人様のご意向を伺い、関係者の意見を反映したケアプランを作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン作成してから、日が無く、モニタリングという部分では不十分であると考えられる。		定期的な、モニタリングの他に、ご利用者様の状況変化があれば、早い時点で検討を行い、より適したプランを日々実施出来る様にしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に伴い、日々個人のケース記録に落としている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族様のご都合が悪い場合等、職員で行える事は可能な範囲で実施している(外出、通院、買い物など)。		から
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域交流は、積極的に実施している。入所者の中でも、現在でも民生委員との繋がりがある方もおり、法事等に一緒に参加したりされている。月に一回近所の保育園の園児に来て頂き、ご利用者様の楽しみになっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特養等への申し込み等の支援を行っている。また、今までご利用していたサービス(デイ、特養、指定居宅など)の関係者と積極的に話を持つ様に心掛けている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	具体的に今まで事例が無いが、運営推進会議等で地域包括支援センターの職員との交流もある為、今後のケースに役立てていきたい。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長が医師である為、自らご利用者様の健康管理をしている。緊急時には夜間でも診てもらえる事も出来る。また、看護婦が月2回訪問している。協力病院の診療所等には、職員が付き添いで定期的な健診を受けられる様に支援している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医療機関が精神科であり、病状の家族への説明や職員に対して適切な対応の指導等頂く事が出来る。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>月に2回の訪問の他、定期的な受診の際の報告、また日々のご様子を毎日書類にて報告し、状況の変化を共有している。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院者が出た際は、ほぼ毎日面会に伺い、状況の変化が無いか、看護師や医師に伺い、早期の退院が出来る様に努めている。また、状況の変化等があれば、ご家族様にもご報告している。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入所契約時に、重度化した場合における指針について、ご説明し、同意書を頂いている。必要が生じた場合は、選択肢を示し、ご本人様・ご家族様にとって、より良い方向に向かう様支援している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>入所者には、特別養護老人ホームへの申し込みを勧めている。また、重度化しての退所は今まで無いが、今後の事も含め、掛かり付け医の医師、看護婦と日々の心身の状況把握に努め、迅速な対応努めていきたい。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>特養への入所に伴う退所の際は、グループホームでの日常のご様子や服薬状況など、直近の確認事項などをサマリー等を通じ、情報をお伝えする。また、入所の際は、ご本人様が困惑しない様に、今まで使用していた愛着のある物等を積極的に持ち込んで頂き、極力ご本人様の生活に合わせる事を意識している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報や接遇に関わる勉強会を実施し、声掛けや対応が慣れ合いにならない様に意識している。記録類や職員間の伝達等は、ご利用者様の言動を注意しながら行っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>一人一人に合わせた言葉掛けを行っている。また、ご利用者様が意志決定が出来る様に出来るだけ多くの選択肢の中から選べる様にしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々ご利用者様の希望を伺いながら、出来る限り希望に沿った生活を送れるように支援している。入浴や体操なども、一人一人希望が異なる為、無理強いはいないように注意している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>2ヶ月に1度、理美容の定期訪問があるが、今まで慣れ親しんだ行きつけの場所で行いたいと希望がある方に関しては、送迎など必要に応じた付き添いは実施している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>包丁などが扱えるご利用者様には、職員付き添いの元、調理も行って頂いている。また、その他の方に関しても、配膳や下膳、テーブル拭き等ご利用者様の状態に応じた協力をして頂いている。メニューに関しても、ご利用者様の意向を伺いながら、決める努力もしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好品やおやつ等は、ご家族様と相談させて頂き、一人一人にご希望に沿いながら支援している。お酒類等は、主に行事の時等にご希望の方には楽しめる様に努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を活用し、一人一人の排泄状況を把握し、各々に合った声掛け・誘導を実施している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は特に決めていないが、時間帯においては昼間の入浴を実施している。		夜寒帯での入浴などは、希望があっても現状は困難な事が多いため、遅めの入浴を希望されるご利用者様には、極力夕方に行く等の配慮を行っていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転傾向のご利用者様等も含め、出来るだけご本人様の今までの暮らしを壊さない様な支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人行える事が異なる事を認識し、それぞれに応じた役割分担を意識している。また、生活歴などからも得意な物、好きな物を把握し、ご本人様に喜んで頂ける場を出来るだけ多く提供出来る様にしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が行える方に関しては、ご家族様とお話をして持って頂いている。また、管理が行えない方に関しても、買い物の際に職員付き添いの元、支払って頂いたり、お釣りを受け取って頂いたりという経験を心掛けている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月の行事の他、天気の良い日は公園の散歩を日課とし、希望者等にはドライブ等の気分転換も行える様にしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事の他、個人の法事等、ご家族様や民生委員の協力の元、ご希望があれば、実施出来る様にしている。		外出のレクがまだ多くないので、今後中華街やお寺の散策等、行ける選択肢を増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望がある際は、電話の使用・手紙のやり取りは支援している。また、贈り物等が届いた際も、電話を勧めたり、手紙の代筆を行ったり支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間等は特に設けず、気軽に来所して頂ける様にしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で、身体拘束をしないケアに取り組んでおり、今まで実施の前例は無い。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、交通上のトラブルも含め常に施錠している。その為、施設内は少しでも閉鎖感を無くす様に心掛け、事務所・台所等扉を設けていない。玄関の施錠に関しては、ご家族様にもご理解を頂いている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を問わず、居室内で過ごす方に関しては、ご本人様が不快感を抱かない様に気を配りながら、定期的な訪室をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人様の管理能力や職員の支援により、使用出来るものは基本的に制限をしていない。ただし、最悪な状況を予見し、ご家族様や主治医と相談し、遠慮して頂くケースはありえる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを職員間で共有する様に心掛け、事故を起こさない努力を第一とする。また、事故が起きた際も最小限度に留まる様に、マニュアルの活用や勉強会、救命講習等にも積極的に参加してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員を対象とした救命講習を年2回実施している。また、毎週勉強会を実施し、介護職員のスキルアップに努めている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	建物はガスを使用せず、オール電化にしている。また、消防設備や水回りなどは業者による定期的な点検を継続して実施している。近所で行われる防災訓練には、職員が参加している。		全ご利用者様を対象とした、避難訓練は行えていない為、確りとした対策を立て、早急を実施していきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事故一つとっても、防止対策を確りと検討し、必要に応じご家族様ご了承の物を少なくして頂いたり、設置して頂いたりしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の様子観察と申し送りの重要性を職員一人一人が確りと認識している。また、昼夜問わずご利用者様の体調変化があれば、管理者に連絡する体制をとっており、必要に応じ管理者より医師に指示を仰いでいる。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧を全職員が目を通せる体制を取っており、臨時の薬など内容に変更があった際は、伝達ノート・申し送り等で情報の共有化を図っている。		全職員一人一人が細かい内容まで、把握しているとはいえない現状あり、今後施設内でも定期的な勉強会を実施し、全職員での把握に努めていく。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表を活用し、日々の排便状況を把握し、申し送り等で情報を共有している。便因が確認出来る際は、水分や運動等、必要に応じ下剤等で調整している。		散歩や歩行訓練以外にも、様々な運動レクを取り入れていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の嗽、歯磨きを声掛け・誘導にて実施している。義歯等は、夜間帯に預かり洗浄している。また、服薬時等に口腔内の観察をするように心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日チェック表にて管理している。また、形態・代替え食等も一人一人に合わせ実施している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員やご利用者様の嗽、手洗いの習慣を強化しており、また感染が予見できる場合は、早い段階で受診し最小限に食い止める努力をしている。勉強会も、社内外を通じ活用している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は外注業者に委託しており、安全な物を提供してもらっている。調理道具等は、夜間帯に熱湯消毒・アルコール除菌等を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは、鉢等を置く様に心掛けており、また外の花壇にはご家族様ご協力の元、花等を植えている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、花や飾り付けを行い、その時々にあった雰囲気を感じて頂ける様にしている。また、施設内の殆どの部分が自由に出入り出来る様な作りになっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になるスペースは居室となってしまうが、職員との二人きりでの散歩等状況に応じた対応をしている。また、リビングのソファ等でご利用者様同士が楽しめる様な工夫をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた物や愛着のある物は危険でない限り、全て持ち込みを許可している。入所前の生活スタイルを大切にしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の職員による換気や、日々の衣類調整・空調調整を一人一人に合わせ行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は殆どの部分がバリアフリーとなっており、扉を殆ど設置していない為、お一人お一人気兼ね無く生活出来る作りになっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレなど、解り易く表示する事で混乱が少なくなる様に努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りを一緒に清掃したり、植えてある花を觀賞したり、育てる支援をしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者様の日々のご様子等を毎日、協力医療機関にFAXしており、主治医や看護婦と情報を共有する事により、早期の異常発見に努めている。目の前の公園を利用し、日々の散歩に留まらず、そこで実施される行事や定期清掃、防災訓練などご利用者様と一緒に様々な体験をしている。法人全体での外出(外泊)レクリエーションが充実しており、畚狩りや七夕、温泉など今まで行けなかった場所等喜んで頂いている。なかなか面会に来られないご家族様が変わり、一緒に買い物に行ったり、協力病院外でも受診を行ったりと、ご家族様のご負担も考慮した対応を行える範囲で実施している。また、毎月の月報に普段のご様子等を写真を添えたりしてお送りしている。